

《薬局サーベイランスコメント》

『インフルエンザの患者数は6週連続で増加が続いており、今週（第48週）かまたは来週（第49週）には全国的な流行開始の基準を超えると予想される』

2018年11月27日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

薬 局 サ ー ベ イ ラ ン ス
(<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/index.html>)によると、2018年第47週(11月19日～25日)のインフルエンザの1週間当たりの推定患者数は18,599であり、第42週以降6週連続して増加が続いています(図1)。また、休日明けの今週(第48週)の月曜日(11月27日)の1日当たりの推定患者数は7,157と今シーズン(2018/2019年シーズン)これまでの最高値(3,794)を大きく上回っています。このまま行くと、今週(第48週)かまたは来週(第49週)には全国的な流行開始の基準である「週当たり推定患者数=30,000/week」を超えて、インフルエンザの流行が開始となることが予想されます。

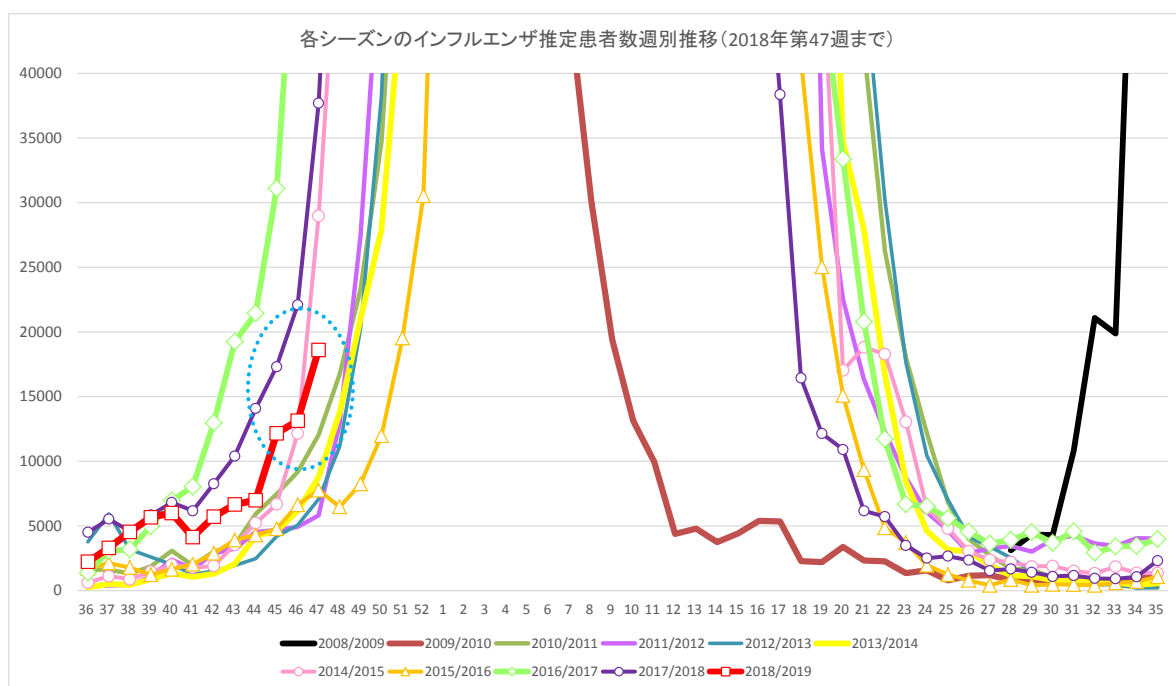


図1. 過去10シーズンと今シーズン(2018/2019年シーズン)の第36～第47週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

各都道府県別の第45週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると福井県、

富山県、広島県、北海道、奈良県、熊本県、愛知県の間となっていて、首都圏の患者数も着実に増加がみられています。

2018年第36週から第47週までの累積の推定患者数は89,177であり、年齢群別では5～9歳(19.6%)、30～39歳(12.7%)、40～49歳(12.4%)、0～4歳11.9%、10～14歳(11.1%)の間となっていて、小児の罹患者の割合が増加しつつあります(図2)。

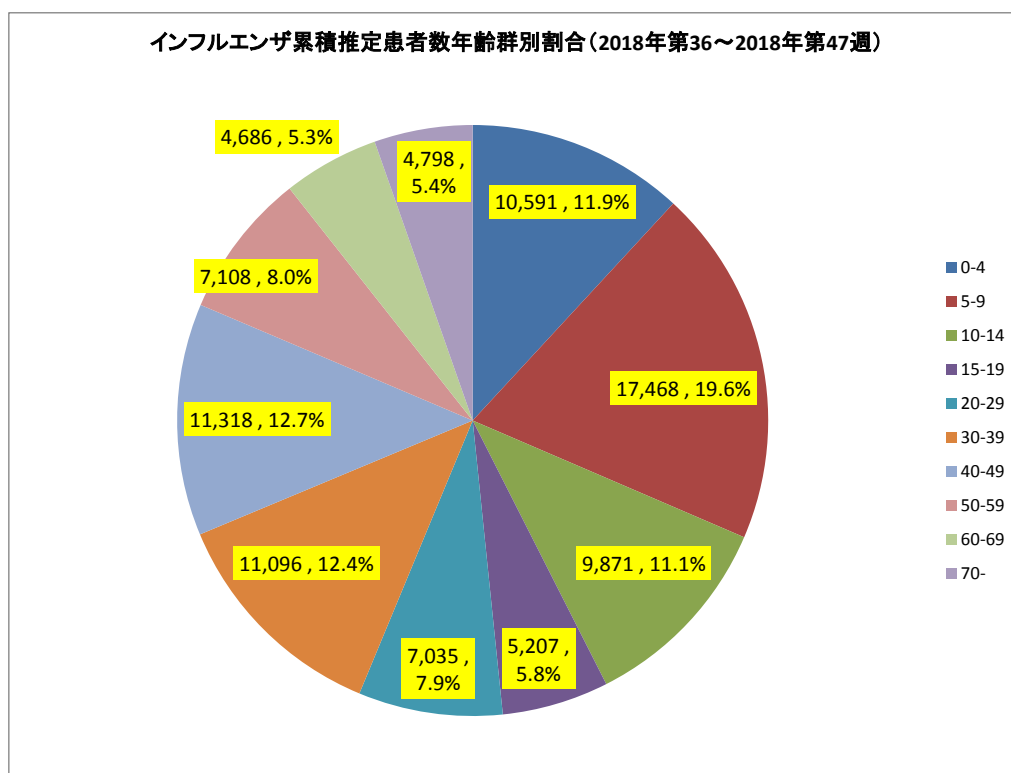


図2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合(2018年第36～2018年第47週、累積推定患者数=89,177)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>)によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(157検体解析)は、A/H1pdmが71.3%と多く、次いでA/H3(A香港)亜型25.5%、B型3.1%の間となっています。

インフルエンザの患者発生数は増加が続いており、もう間もなく今シーズンも全国的な流行が開始となると予想されます。今後ともインフルエンザの患者発生の間向について注意が必要です。